

\*\*\*\*\*

# 時間の革命——平和の計画と運動

\*\*\*\*\*

著者

ヴァルム・ヴォタン & ボロン・イク  
(ホゼ & ロイディーン・アグエイアス)

翻訳・構成

高橋 徹&PAN日本語翻訳チーム

## 目次

---

■地球規模の警告／13の月の暦に替える平和の運動／決断の52日間…	3
■世界規模の13の月の暦に替える平和の運動…	5
■創造的な平和：人類の生き残りのために、いまだ確かめられていない 戦略を試みる…	6
■世界規模で13の月の暦に替える平和の運動…	11
■13の月の暦に替えること：最終的な平和の計画…	13
■緊急の霊的な解決法／世界規模で13の月の暦に替える平和の計画…	16
■バチカン・13の月の暦に替える平和の任務…	18
■世界暦の第二の改革／時間の革命…	19
■新世界暦への改暦平和条約：前提…	21
■新世界暦への改暦平和条約…	22
■運動の状況報告：時間の革命を止めることはできない…	23
■新世界暦への改暦：国連、バチカン、そして千年紀の Y2Kコンピューター危機…	27

※訳注：「13の月の暦に替える平和の計画」の基本的な内容は、『「新しい時間」の発見』（風雲舎刊）の巻末付録として取り上げられているため、本資料には掲載していません。また、関連資料として『13の月の暦に替える平和の運動、完全ガイド』があります。

Original Copyright (c) 1992-1999 by Jose & Lloydine Arguelles  
Japanese Translation Copyright (c) 2000 by PAN Japanese Translation Team

---

## 地球規模の警告：13の月の暦に替える平和の運動 決断の52日間／水晶の月28日～磁気の月22日 （1995年6月26日～8月16日）

---

地球規模で13の月の暦に替える、平和の運動を推進する仲間たちへ：

私たちは、銀河の月8日から惑星の月28日にかけて、惑星の巡礼「惑星平和の新しい時間のための、80日間世界一周」を行ないました。パカル・ヴォタンの預言的な伝言は、世界中の人々に届けられました。いまや地球上では、同時進行する二つの動きがあることを私たちは確認しています。ひとつは急速に衰退する12:60の地球規模の産業文明という旧秩序の運動、もうひとつは急速に勃興しつつある13:20の「暦を替える平和の計画」という運動です。

いまや道德の緊急事態（※訳注：道徳的な退廃が地球全体に蔓延し、生物圏を脅かしていること）が人類全体をおおい尽くしていることに疑問の余地はありません。私たちは、正義の軍勢に対して、「1995年7月24日、25日、26日に平和の旗を手にとって、13の月・28日の新しい時間へと直接行進するように」との呼びかけを再びはじめます。144,000人の人々が、13の月の門を通過して、預言の第3の年、＜白い電気の魔法使い＞をはじめめるために行進しなければなりません。12:60の世界が、すぐに従うことはないかもしれません。しかし、その世界はやがて間断なく分断され、終止符を打つことになるでしょう。144,000人の目的は、新しい時間をしっかりと保持し、12:60からの難民を引き寄せること、また旧秩序が崩壊するにつれ、私たちが単独に存在しているわけではない（※訳注：「私たちには仲間がいる！」）という知識を広げることにあります。1996年7月25日、＜白い電気の鏡＞までに、新しい時間のテレパシー的な輝きが、世界を照らすことになるでしょう。

惑星道德の緊急事態は、惑星規模の災害計画を必要とします。この災害計画の第1段階は、「決断の52日間」、不正確な12か月のグレゴリオ暦によって支配されている古い時間を捨て去り、生物学的に正確な13の月・28日の太陽暦へと入り込む決断をするよう、人類に呼びかけることです。惑星規模の災害計画の第2段階は、預言の第3の年、＜白い電気の魔法使い＞、1995□1996年の＜惑星奉仕のウェイブスペルカレンダー＞で輪郭づけられる社会の再組織化に着手することです。＜惑星奉仕のウェイブスペルカレンダー＞は、この年全体を通して、さらに刷新されるでしょう。

決断の52日間

聖なる戦線が定まり

あなたが属する時間をどちらにするか決める52日間

12:60は死に、13:20は生きる

時間の二つの側面、決めるのはあなた

●新しい時間、「決断の52日間」へと入るスケジュール：

・第四の呼びかけ：

水晶の月28日（1995年6月26日）、＜黄色い水晶の種＞、サンフランシスコでの国連憲章への調印50周年記念。

宇宙の月1日、＜赤い宇宙の蛇＞、惑星平和の新しい時間のため、世界中で「虹の国家」の平和的な運動を起こす28日間の初日。

宇宙の月 5 日～12 日（7 月 1 日～8 日）、8 日間にわたる「年次・虹の集会」、ニューメキシコ北部。

・第五の呼びかけ：

宇宙の月 20 日（7 月 16 日）、最初の原子爆弾実験と核時代誕生の 50 周年記念、ニューメキシコ州トリニティ・サイト。

宇宙の月 18 日～20 日（7 月 14 日～16 日）、ニューメキシコ州から日本の長崎までの、ATOMIC MIRROR PILGRIMAGE の開始。ATOMIC MIRROR PILGRIMAGE は、PAMELA MEIDELL の組織する平和グループの連合。詳しくはファクスで：~~01-805-985-7563~~

第五の呼びかけは、古い時間の 12：60 の追放（亡命生活）からの脱出をはじめ、13：20 の約束の地へと向かいます。「時間の脱出」が、惑星の浄化、聖なる秩序と生物圏の自律性の回復を本格的にはじめます。「時間の脱出」は、世界中で同時に行なわれるべきであり、7 月 24 日、25 日、26 日で頂点に達します。

・宇宙の月 28 日、＜黄色い磁気の人＞（7 月 24 日）は、古い時間の最後の日。

・時間はずした日、＜赤い月の空歩く者＞は、曜日のない日（7 月 25 日）、1995 年、カレンダーを燃やす日、銀河の一撃、普遍的な許しとあらゆる紛争地域での停戦を請う。

・磁気の月 1 日、＜白い電気の魔法使い＞（7 月 26 日）、新しい時間の初日。あらゆる聖地での集会を呼びかける。この日を日曜日とした 1 週間を新しくはじめる。

・磁気の月 12 日と 15 日、＜赤い磁気の蛇＞と＜黄色い自己存在の星＞、広島と長崎の原爆 50 周年、ATOMIC MIRROR PILGRIMAGE の完了。「時は芸術なり」の新しい秩序をはじめめる。“ART NOW, WAR NO MORE!”（「戦争ではなく、芸術を！」）

・磁気の月 20 日、＜赤い太陽の空歩く者＞、第二次世界大戦終結（終戦）50 周年記念、はじめての世界平和宣言。

・磁気の月 22 日、＜青いスペクトルの鷲＞、ハーモニック・コンバージェンスの 8 周年記念。惑星芸術ネットワーク（PLANET ART NETWORK/PAN）の再生を呼びかけ、人類にとっての新しい議題として「はじめての世界平和」を確立する。「決断の 52 日間」は、あらゆる地域で聖なる儀式とともに完了する。「勝利は鎮める！」

●生物圏への奉仕を行なうすべての「自律的な人々の委員会」への覚え書き：

「平和の計画」と「13 の月の暦」を無料で配りましょう。公的なプレゼンテーションに参加した人を手ぶらで帰さないように！ 「惑星地球を元に戻すための、人々の自律的な惑星規模の決議」を公にしましょう。

「1996 年 7 月 25 日、普遍的な停戦へ向けての請願と地球の自然な 13 の月・28 日の暦の受容」をあらゆるメディアや官公庁などに送ります「生物圏の誓いをすべての銀行、産業界、政府機関に送ります。誰が生物圏の恩赦にあたいする者で、誰がそうでないのかを公的にも明らかにさせるように取り計らうのです。

ホゼ&ロイディーン・アグエイアス  
銀河連盟は静かにやってくる！

## 世界規模の13の月の暦に替える平和の運動

---

関係者各位：

地球上をまわりながらの6年間にわたる幅広い研究とフィールドワークのあとに、ホゼ・アグエイアス博士と彼の妻であり共同研究者であるロイディーン・アグエイアスは、米国に戻ってきました。

全体系科学者、芸術家、作家であるアグエイアス博士は、ひたむきな地球平和の活動家として世界中で認知されています。マヤの時間のコードを解読した彼と妻のロイディーンは、現在世界規模で使われているグレゴリオ暦にゆゆしき過ちがあることを発見しました。この時間における過ちの知識により、現在の不規則な12か月の暦を、生物学的に正確で規則的なそれぞれ28日ある13の月の地球暦にとって代えるという緊急の呼びかけを促すことになったのです。

この時間における過ちを修正する行為の結果、アグエイアス夫妻は「文化による平和、生物圏主体の平和」と呼ばれる惑星地球のために重要な平和の計画を開発しました。その履行までに5年の歳月をかけた平和の計画は、グレゴリオ暦から「13の月の暦」に替える出発点を1995年7月26日にしています。

この問題に関するより深い知識をお望みの場合、1995年7月26日に古い暦にとって代わる新しい暦の見本を含めて、すべての補足資料とともに、私たちはあなたの依頼に応えたいと考えます。これらの資料は、現在進行中の世界規模で暦を変える平和運動の状況についての全般的な考え方を提供してくれることと思います。

あなたのような人々がこのプロセスに参加することで、この作業のさらなる実現の可能性が広がり、惑星地球の生物圏を救うことがより確実になることでしょう。いまやさまざまな形で相互作用し合う汚染状況により、深刻な脅威にさらされているこの惑星の生物圏は、私たちがそれらに即座に関心を払い、解決法を提示することを求めています。

私たちは、あなたがこの問題に関して特別な注意を向けくださり、どんな形であれ、この作業を支援するための協力的な行為をなさってくださいをお願いいたします。もしより多くの情報もしくは個人的な相談等のご要望がありましたら、私たちは現在、あなたご自身、もしくはあなたの組織に応じた、さまざまな形でのプレゼンテーションに対応できるかと存じます。

敬具

13の月の暦に替える平和の運動のワールド・コーディネーター□  
ロイディーン&ホゼ・アグエイアス

## 創造的な平和：人類の生き残りのために、 いまだ確かめられていない戦略を試みる

世界規模で 13 の月の暦に替える平和の運動は、次の千年紀のための人類の新しい共同体である。13 の月の暦の道歩く者は、平和の道を型どる。

私たちから巧みに逃れてしまう平和とは、いったい何だろうか？ 平和とは、自然時間の中に生きることのひとつの機能である。12:60 の計時周波数という偽りの時間は、その本質において、真の根本的な平和の知識を禁じる。平和を知るには、もはや遅すぎることになる前に、私たちが平和そのものになること、偽りの時間を捨てて、真の平和に関与すること。これが、はじめての世界平和の意味とその目的である。

平和は、3 つの段階を通して育まれる文化だ。これらの段階は、偽りの時間の中では形づくることができない。それらは、「13 の月の暦」によってもたらされる自然時間の中でのみ体験される。平和のそれぞれの段階を形づくることによって、人類は平和の新しい共同体になる。しかし、人類は、戦争にみずからを動員したのと同様に、平和に対してもみずからを動員しなければならない。人類が共通の敵に対してだけ同盟し合えるということが真実なのだとしたら、平和は不可能である。人類は、自分自身の最悪の敵になっているからである。人類はみずからをテストして、平和のためにお互いにポジティブに結びつくことができるかどうか、そしてそれ自身の最悪の敵——人類自身——を克服できるかどうかを見てみなければならない。はじめての世界平和のターゲットは、人類のすべてをその進化的な改善のために動員させること、そのものにある。

次の記述は、思考不可能なことについて思考するためにのみ掲げてある。まず最初に、「4 年間のはじめての世界平和、1996□2000 年」に応じて、平和の 3 つの段階を簡単に説明する。

**段階 1**：創造的な平和。これは、誤った時間の中でどうしようもなく苦境に陥っている物質主義の文明を克服するために行なう、創造的な奮闘である。創造的な平和は、継続的な戦争の脅威——武器と金銭——のもとに人類を置いている根源症状を直接扱う。1996□1998 年。

**段階 2**：ほんとうの平和。人類は、金銭、武器、あらゆる種類の軍備なしに生きることが進化的な前進であることを理解する。武器の脅威のもとであまりにも長いあいだ生きてきたことで身についた恐れや攻撃性から解放されることが、保存されていたポジティブで霊的なテレパシーの力を深いレベルで解放する。1998□2000 年。

**段階 3**：永続する平和。人類みずからの自己尊重感のフィードバックが、それみずからの生物変異的なシフトを誘発し、それが永続する平和の状況へと向かう。それは最終的に、惑星芸術胞子として実現する平和の文化となる。言い換えれば、人類は、それみずからの遺伝的なプログラムに取り消しできないほど、創造的な力の行為によって影響を与え、それにより戦争、攻撃、金銭に対する隷属がまったく不可能な、それ以前の状態に回帰する。

「13 の月の暦に替える平和の運動」は、平和の道となることをみずから担い、人工的な時間、金銭、武器、麻薬から自由な平和の道を、すべての人類のために実験する。いまや、その根拠からこの問題に取り組むときだ。

### ●はじめての世界平和の戦略

はじめての世界平和の戦略は、文明の病（dis-ease、不健全で居心地のよくない状態）を取

り除き、人類に生物圏におけるその自然な秩序を取り戻させる。すべての人類の基本的な善良さは、この方向に向かう傾向がある。だが、人類にそのゴールを気づかなくさせているものは何だろうか？

生物圏の自然の秩序は平和だ。しかしその平和は、今日の私たちには知ることのできない状態である。真にこの自然な平和を知るには、私たちは、文明の病の原因を根こそぎにする必要がある。その根本要因は、偽りの12:60の時間の中に生きる呪いにある。そう、人類は、自由意志と聖なる秩序の試練にさらされている。そして、道徳的な問題が常にここには存在している。しかし、偽りの12:60の時間の制度化が人類を自己破壊という道徳的な行き詰まり状態に追いやってしまった。その本質において、12:60の時間は、生物圏における人類以外の残りの種の自然時間と非同期的である。この非同期が、人類文明全体の秩序を本来的に闘争状態に保ち、またさらに墮落させており、人類はますます偽りの時間の術策に依存するようになっていく。

闘争の文明の根本要因は偽りの12:60の時間であり、文明の病の二次的な原因あるいは根源症状は金銭で、それが世界支配秩序や、産業兵器、すなわち銃器から原子爆弾までの根底にある。金銭と武器によって促進されるこの病の三次的な根源症状は、マフィアや政府を同様に巻き込んでいく、非合法の麻薬文化の繁栄である。

武器や金銭や麻薬なしの人間生活を想像してみしてほしい。金銭という幻想的な力を通して私たちの生活を支配する、グレゴリオ暦や機械時計の60分1時間に応じた生き方でない生活を想像してみしてほしい。金銭は武器を強化する。武器は金銭を強化する。誕生から死までの人生のすべては、時計によってその時間を割り当てられており、同時にすべての支払いや負債、さらには利率もグレゴリオ暦によって特定の期日が決められている。ねじ曲がった奇形の利益や高利の価値がいまや人類経済を支配する閉鎖状況をつくりだしたのは、グレゴリオ暦の12か月というねじ曲がった奇形の尺度だ。今日、人間生活および人間の時間のすべては、無慈悲にも金銭の力によって操作されている。そして金銭は、人工的な12か月の暦や機械時計と切り離すことができないものになっている。

文明の病を根こそぎにし、はじめての世界平和をつくり出すために、私たちはまず第一に創造的な平和に携わらなければならない。私たちは、まず第一に偽りの暦の使用を排除し、13の月・28日という年間時間の真の尺度をそれにとって代える生活を即座にはじめなければならない。また同時に、生活価値の物差しとしての時計や60分1時間のシステムも非合法化しなければならない。

次に私たちは、惑星を非武装化し、人類の金銭を使う習慣をやめる緊急プログラムを開発し、実行する必要がある。これは、道徳的に大胆な行為を行なう個人や集団を通してのみ達成される。私たちはいまだに自由意志を持っている。私たちの自由意志を正しく集合的に使うことは、真実と連携した行為である。私たちが病気や不健康な状態を分析し、通常健康状態を取り戻すためには、その症状を取り除くために根本要因をはっきりさせて、それを根治させなければならないだろう。二次的な文明の病の原因である武器と金銭から解放された私たちは、そこではじめて真の平和、ほんとうの平和を体験できるチャンスをつかむ。

金銭と武器のない世界を想像すれば、恐れのない世界を想像したことになる。武器と金銭を取り除くことにより、あなたがたは、最も悪意に満ちて狡猾な恐怖の力を取り除くようになる。これらの恐怖の力は、恣意的で人工的な政府の法律という全体システムによって維持されており、あまりにも長いあいだ私たちと共にあったので、私たちは実際にそれらが私たちの性質の一部だと信じている。しかし、真実は、それらは暴力や管理といった無分別なイメージと共にある私たちの生活を支配するひどく有害な習慣以外の何物でもない。

集合的・道徳的な自己修正は、「はじめての世界平和の最初の2年間、1996□1998年」のあいだに達成されうる。この行為は、創造的な平和——真実の平和の状況を獲得する共通要因により世界中で結びつく、13:20の集合性によって道徳的に喚起される行為——の本質を成している。道徳的な勇敢さと大胆さによるこのような行為を為すことは、偽りの暦を取り除き、軍備や金銭の使用とその継続的な生産をやめることを通して達成され、はじめての世界平和の第

二の2年間で、ほんとうの平和、武器によって強制されることのない平和、金銭の奴隷からは自由な平和の体験に捧げられるだろう。

偽りの時間、武器、金銭からの解放されることによって引き起こされる、恐怖からの解放を通して、私たちは次のことを理解する。すなわち、これら人工的な道具への依存が、本来は生物圏に対して創造的な貢献をする種である私たちの進化にとって有害で退行的な特性だったことである。私たちの存在から武器の恐れを解放することは、同時にそれと等しい量の精神テレパシー・エネルギーを解放する。そのエネルギーは、何百年、あるいは何千年ものあいだ、武器や金銭により集積した集合的・精神的な恐怖によって抑圧されてきたものである。金銭と武器の専制的な支配から人類が解放されることによるこのエネルギー交換は、あまりにもポジティブに人類を満たすので、それにより人類は集合的にいまだかつて理解したことのないような方法で理解を深めるようになる。この理解が最終的に、平和の真の性質、ほんとうの平和、もはや武器や金銭によって維持される偽りの権力の生産物ではない平和の認識につながる。

ほんとうの平和の体験は、すばやく、また必然的に人類を永続的な平和へと導いていくようになる。精神テレパシー的な力と意識の高揚が、はじめての世界平和の最後の2年間を通して実現されることで、人類はみずからの進化的な飛躍を引き起こすようになる。これは、生物圏的な環境から惑星の電磁場へと芸術的にみずからの自己知識を巧みに処理することによってなされる。共生的な安定性の新しいレベルを獲得する必要性を理解した、高度に焦点化した意図の最終結末は、地球の極をとりまく輪、「虹の橋」を誘発する。これらの輪の創造は、原子爆弾の創造以上に突飛なものではなく、天王星のまわりをとりまく極の輪と結びつくことになるだろう。

要約：はじめての世界平和は、13の月の暦に替える平和の運動の協議事項である。その実現は、人類がみずからの共同体を浄化するという道徳的な勇敢さ、およびみずからを新しい暦によって正しく位置づけるといふ、さまざまな権力を持たない共同体の中で生起する13:20の集合体の第1年の実験に依存している。

道徳的な改革運動は、「倫理プロジェクト」、すなわち惑星環境と調和した人類の磁気バランスを再確立する4年間の集合的なテレパシー実験および「目に見えない大学」として知られる生物圏的な新しい時間の教育プログラムによって歩調が定められ、また監視される。世界規模で13の月の暦に替える平和の運動もまた、核となる平和の協議事項に影響を与える二つのプロジェクトに乗り出す。その第1は、「惑星芸術ネットワーク」(PAN)、すなわち時間の法則に応じて社会の再組織化をはかるプログラムであり、その第2は、地球変換信託とプラネタリー・ストアを創造するための銀河文化のマスタープランである。このマスタープランの全体的な目的は、人類の平等の確立と、富、貧困、廃棄物といった病の排除のために、金融制度と制御されない産業生産のプロセスを全面的に変容することにある。

## ●創造的な平和

### 第1段階、第1年、1996～1997年

13:20の銃器を持たない近隣地域の、集合的な、共同体の創造。その共同体の内部において、人々は、既存の銃器をすべて没収し、それらを分解ないしは溶解して、残った素材を活用可能でかつ芸術的なプロジェクトのためにリサイクルする。同時にこれらの共同体は、権力の象徴としての金銭を排除する実験を行ない、ホームマーケットという金銭を使用しない経済を創造するプロセスをはじめめる。事実上、銃器を持たない社会も数少ないもののいくつか存在する。たとえば、日本、ドイツ、コスタリカ、また米国内のイスラム共同体(the Nation of Islam)などである。

### 第2段階、第2年、1997～1998年



良い手本となった 13:20 の銃器や金銭から解放された共同体は、人類のその他の共同体にもその伝言と技術を拡張し、平和への障害物を取り除く。「倫理プロジェクト」のテレパシーと、世界の金融制度の変換をはかる銀河文化のマスタープランで歩調が定まることで、はじめての世界平和の第 2 年の終わりまでに、ほんとうの平和の体験が可能になる舞台設定が整う。この第 2 段階の終わりには、すべての武装計画は完全に閉鎖されるか、もしくは変換プロセスに組み込まれ、すべての株式市場や銀行の業務は停止する。

#### ●ほんとうの平和

### 第 3 段階、第 3 年、1998～1999 年

新しい 13:20 の銃器や金銭から解放された社会は、惑星地球の新しい規範となる。第 3 の勢力である生態地域的なホームマーケット経済の基礎が、惑星芸術ネットワークの集成的な芸術活動と結びつくことで、ほんとうの平和の状態における人類を確立する。この新しい現実の中で人類は、再び獲得されたテレパシーの力を急速に理解しはじめ、生物圏の大規模な浄化と回復作業を支援するようになる。その間、人類の再教育のための「目に見えない大学」のホームスクールは、都市を庭園に変える作業をはじめるとともに、より自然な磁気の連携関係の中に人類集団を再配置するようになる。

### 第 4 段階、第 4 年、1999～2000 年

銃器と金銭によって課せられた恐れから自由になるにしたがって生じる、精神テレパシー的なエネルギーと知識の解放により、人類は、人類の本質と文化の永久進化の性質としてのほんとうの平和という、種を統一するビジョンを掲げるようになる。平和の達成が戦争を起こすことよりもはるかに強力であるということを実感し、その事実を励まされることで、人類の精神生活は、集成的な成就に関する前代未聞のレベルを獲得するようになる。同時に「倫理プロジェクト」が、人類に対して新しく見いだされた成熟の度合いと、霊的な知性をテストする焦点、極をとりまく虹の橋をもたらす。

#### ●永続する平和

### 第 5 段階、第 5 年、2000 年以降

規則的で生物学的に調和のとれた 13 の月の暦に内在する、正しい計時周波数に回帰することを通して、人類がみずからの道徳的な自己修正を成功させること、またそれに伴って生じる芸術的な生物テレパシー的で虹の橋を巧みに処理することは、永久に次の進化段階——永続する平和——における人類を確立する。完全に人類が歴史後の存在になることで、歴史は、新しい種——ホモ・ヌースフェリカス（惑星心を持った人間）になるために必要だった道、その神秘的かつ精神的な通過儀礼という暗い伝説にはかならなくなるだろう。その精神的に逆行できない力のテストに引き続き、生物圏に完全に再統合されたホモ・ヌースフェリカスは、みずからを生態地域的に組織し、テレパシー的に統一された惑星芸術胞子としてみずからを実現する。新しい地質学的な時代、「精神生命」の時代が前代未聞の壮麗な地球となって開花する。銀河文化は、永続する平和のまさにその本質となって堅固な形で実現する。

はじめての世界平和によって達成される平和のこの 3 つの段階は、道徳的な意志の開発を表わし、生物圏から精神圏の移行を成功裡に完了させるうえで必要である。

この資料は、「世界規模で 13 の月の暦に替える平和の運動」と、「はじめての世界平和」の開

始のために、メキシコのアナワク生態地域で差し出される。

預言の第3年、白い電気の魔法使いの年、「勝利は鎮める」  
宇宙の月 25日～28日

## 世界規模で13の月の暦に替える平和の運動

---

---

青い自己存在の嵐

預言の第4年、勝利は確立する

はじめての世界平和の宣言

はじめての世界平和の宣言は、歴史的にも前代未聞の出来事として、新年にメキシコのテオティワカンで為された。記憶されるかぎりではじめて、おそらくは征服時代からはじめて、メキシコ政府は、かつては禁止されていた旗、太鼓、ほら貝を使った、約800人の参加者の行進を含む儀式の許可を出した。

テオティワカン、「神々が地上に触れた場所」は、世界的に見ても最も大きな古代の都市センターのひとつである。メキシコ・シティという現代の巨大都市から車でわずか45分ほどのところにあるテオティワカンは、脅威的な建築の配列によって特徴づけられている。その中には、太陽と月のピラミッド、さまざまな広場、そして壮観なケツァルコアトルの城壁が含まれている。紀元前300年から紀元後600年のあいだに建築され、繁栄を誇ったものの、紀元800年までにこの宇宙的なマヤの都市は放棄された。真の平和の文明の神秘的なセンターの建築主たちの道標となる哲学は、シンプルに「花と歌」として知られている。

「13の月の暦に替える平和の運動」の呼びかけにより、行進はメキシコの主要な伝統主義者や変容主義者の集団の先導者たちを集め、それ自体が、統一を示す前代未聞の出来事となった。中央メキシコの伝統主義運動の祖母と言われるシロネンによって率いられた色とりどりの行進は、北側にある月のピラミッドに向かって「死者の大通り」を直進した。月のピラミッドの正面には、ほら貝吹きが9段の階段の台座部分に立っていた。「9人の時間の主」を象徴する9段である。月のピラミッドの頂上ではシンプルな水による自己浄化の儀式が行なわれ、そのあと行進する者たちはUターンしてさらに大きな太陽のピラミッドへとその大通りを戻った。コパルの香の煙りに浄化された行進する者たちは、太陽のピラミッドを昇ったり降りたりして、ケツァルコアトルの城壁へと最終的にたどり着いた。

城壁の中では、さらに500人の参加者が行進する者たちを待ち受けていた。12の階段状の神殿に取り囲まれた大きな宮廷の中心に、13番目の階段状の神殿がある。全部で13あるこの階段状の神殿は、新しい時間の13の月のそれぞれを示すしるしを引き立たせた。ほら貝吹きは、それぞれの神殿の頂上に立った。13番目、すなわち中央の神殿から、はじめての世界平和が宣言された。この瞬間の普遍的な性質を強調するかのように、その13番目の神殿の頂上には、ティネッタ・ムハンマドとラインハルト・ルージの姿もあった。ティネッタ・ムハンマドは、イスラム共同体（the Nation of Islam）の霊的なリーダーであり、ラインハルト・ルージは、世界組織議会協会（World Constitution and Parliament Association）の共同代表者である。

人類の歴史において最も平和で巨大な文明を持っていたセンターのテオティワカンに敬意を捧げ、13の月の平和の運動のコーディネーター、ホゼ・アグエイアスは、「はじめての世界平和」のゴールは、極をとりまく虹の橋によって特徴づけられる、惑星規模のテオティワカンをつくることであると宣言した。アグエイアスはまた、彼が最初のビジョンをテオティワカンで受け取ってから43年が経過したことをつけ加えた。このビジョンから、彼は自分の人生の目的が、この聖なる場所に奉獻されていた智恵を理解することであることを知った。アグエイアスは、そのビジョンの実現が、儀式に集まった参加者たちの存在によって成し遂げられたこと、またその人たちに対して起源の智恵が太古の平和のビジョンを成就するために戻ってきたことを認めた。儀式は、プロ・セル集団のリカルド・ピカルドが先導した「メ〜シ〜コ！」という叫びで終了した。ピカルドによれば、メシコ（メキシコ）とは、国境で分けさせられた地域

のことを示すのではなく、人々を宇宙的なリアリティの知覚へと引き寄せる惑星チャクラのことなのだという。

この新年の儀式は、メキシコの13の月のコーディネーター、マリア・エステル・エルナンデスによって開かれた6日間の催しの締めくくりだった。それは、「人類のハーモニック・コンバージェンス：世界平和と呼ばれる科学実験」と名付けられた。メキシコと南米から、また一部は北米からの参加者も合わせると200~300人の惑星キンが集まり、PAN、PCCの形成、そして「倫理プロジェクト」を含む、はじめての世界平和のこれからの活動について話し合った。また、預言の第3年、太陽の月11日から15日にかけてブラジリアで開かれた「第1回・生物圏の権利の会議」の内容を補う意味で、ホゼ&ロイディーン・アグエイアスによる4晩にわたる夕方の講演も催しに含まれた。それぞれの講演会は、シンプルな浄化の儀式によって完了した。

時間はずした日には、メキシコ・シティの南端、巨大で円形の古代神殿のある場所、クイクルコで主要な儀式がはじめられた。その後、無償配布のポトラッチや持ち寄りの宴会が近くの公園で行なわれた。「緑の日」の活動は、芸術家であり、霊的なリーダーであるティネッタ・ムハンマドによって組織された世界音楽コンサートで締めくくられた。そのコンサートの最後は、ムハンマド夫人の「気高い勝利の行進」という協奏曲の演奏で、それは翌日テオティワカンで「はじめての世界平和」を宣言する行進の前奏曲となるものだった。

## 13の月の暦に替えること：最終的な平和の計画

赤い磁気の竜、電気の月7日の宣言  
預言の第4年：勝利は確立する

「13の月の暦に替える平和の計画」は、最終的な平和の計画である。なぜだろうか？ なぜなら、「13の月の暦に替えること」を受け入れることは、産業主義から解放される最終的な生活様式だからだ。それが最終的なのは、完全な戦争とも言える今世紀に提示された唯一の包括的な平和の計画だからである。それが最終的なのは、「時間の法則」の発見に基づくからだ。「時間の法則」は絶対的なものであり、「相対性理論」に取って代わる。「時間の法則」が絶対的なのは、「相対性理論」の持っていなかった道徳的な影響力を持っているからである。

「相対性理論」は、1906年に提出された。それは今世紀を決定づけ、アインシュタインを天才の典型という地位につかせた理論である。それは1914年、第一次世界大戦と、すべての戦争を終わらせ、民主主義のために世界の保全をはかる平和条約に引き継がれていく。国際連盟である。一方的な平和条約で政府が他の政府を罰するようになる。そして、1930年代、スペインの内乱。イタリアのアフリカへの軍事進攻。ドイツは中央ヨーロッパへ。そして日本は極東のアジアへと進出する。1939年、アインシュタインは、ルーズベルト大統領に、「爆弾」をつくることを考慮するようにと力説した有名な手紙を書く。ついに、 $E=MC^2$ が、原子爆弾へと応用されることになる。1940年、核分裂が証明される。1943年、マンハッタン・プロジェクトがはじまる。1945年、トリニティ・サイト、広島、長崎。「相対性理論」の勝利。

第二次世界大戦の終了。さらに一方的な政府の平和条約。もはや国際連盟はなくなり、国連となる。ベルリンの壁。冷戦。インドとパキスタン。朝鮮戦争。イスラエル。インドシナとベトナム。1968年の暴動。カンボジア。イラン。アンゴラ。レバノン。PLO。ガザ地区、西側地区、ゴラン高原。アフガニスタン。北アイルランド。1990年に冷戦は終結したというが、それが平和をもたらしたわけではない。それはG7、テロリズム、クウェートとイラク、湾岸戦争をもたらした。セルビア、ボスニア、クロアチア。ソマリア。ルワンダ。チェチェン。クルド人。イラク。ゴビ砂漠と南太平洋環礁での核実験。火星への移住計画。

1996年、アインシュタインが「相対性理論」を発表してから90年後、「時間の法則」が「相対性理論」をその地位から引き降ろす。やっと、経済や物理学に基づかない人類文明の客観的な分析が可能になった。ひとつの周波数が、すべてに共通している。ひとつの時間があらゆるものを型どっている。その周波数は、絶対であり、一定である。その完璧な尺度は、聖なる比率。アラーの命令は、不変である。時間は聖なる秩序。聖なる秩序は、最終的かつ絶対である。意識的に知られ理解される時間の聖なる秩序は、物質的な相対性や人工時間の文明という墮落した秩序にとって代わる。

「時間の法則」は、「13の月の暦に替える平和の運動」に、絶対的な真実の聖なる秩序で、相対性文明の無秩序にとって代わる道徳的な権限を授ける。これにより、「13の月の暦に替える平和の運動」は、最終的なものになる。それにより、これ以上の世界戦争はなくなり、唯一、世界平和のみがある。「13の月の暦に替える平和の運動」は、20世紀のこれまでの平和運動のすべてを成就する。「13の月の暦に替えること」の包括的な平和は、21世紀が歴史後の最初の世紀となることを裏付けるものだ。

世界平和の運動は、「相対性理論」が提出され、その後に応用されるまでは不要だった。世界平和は、世界戦争が生じるまでは、問題とはならなかった。第一次世界大戦のあとでさえ、政

府が所有し、後援する国際連盟でも、ニコライ・レーリヒが「文化による平和」、すなわち文化を通しての平和運動を正式に開始する 1920 年代後半までは、人民による世界平和運動はひとつもなかった。「平和の旗」をその真実の道具として使った「文化による平和」の運動は、1935 年、レーリヒ平和条約の調印に至り、真の平和の基礎としての文化を確立した。

戦争の根は、文化にあるのではなく、軍需産業や産業主義一般にある。「平和の旗」は、世界魂の売り渡しの際に清算されて、単なる一枚の布になってしまった。レーリヒは、再び追放され、今度はヒマラヤに行くことになった。国際連合は、文書保管所に「平和の旗」を葬った。国連安全保障理事会は、5 つの公的な核保有国によって構成されていた。そのため冷戦時に平和は、街頭、兵器工場、潜水艦の出発する港に移動した。平和は何度も何度も催涙ガスを浴びせかけられた。平和はキリスト教徒の無政府主義者、ガンジーの団結主義者、非暴力主義の市民の不服従、グリーンピースだった。平和は、「爆弾禁止」を掲げる歌を歌い、その看板を持って行進したために、暗殺された。

しかし、このどれもが本当の意味での平和ではない。それは皆、戦争反対であり、核爆弾反対だった。だから、冷戦が終わったとき、平和運動に何が起こったのだろうか？ 歴史の弁証法が終わり、平和運動は挫折し、冷戦政策の風船玉に空気は残っていなかった。だが、爆弾はなくならなかった。そして、戦争もなくならなかった。さらに、規則はどこに行っても厳しくなるばかり。そして爆弾がいつ公衆の面前で爆発するかわかったものではない。平和とは何なのだろうか？

今世紀の平和条約は皆、政府のために交渉で取り決められたものだ。政府は産業を保護する。特に軍需産業を。一方的な平和条約で、ひとつの政府は軍需工場や軍事力を否定し、もういっぽうで別な政府は、自由に軍需産業と軍隊を認めている。最も強力な軍事力が、どちらの政府が罪を犯したか、どちらがそうでないかを決め、どちらに十分な量の武器が必要かを決める。これが人工的な時間と相対性理論の平和である。それでは効力を持たない。それは効力を持つようにはできていないのだ。戦争だけが利益を生む。偽りの時間の非道徳性がいまや明らかになった。「時間の法則の発見、1989□ 1996 年」があらゆるものを変える。

「時間の法則」の発見は、「13 の月の暦に替える平和の計画」に、至高の道徳的な権威を授ける。そして、平和を邪魔するものと平和を創り出すものの要因や原因に関して、完全に客観的な分析および、真の創造的、永続的、普遍的な平和を確立する包括的な社会・環境プログラムを授ける。これは最終的な平和である。最終的な平和は戦争と暴力を廃止する。そして何よりも第一に暴力の手段を廃止する。これは、道徳的な進化の行為である。「時間によって因数分解されるエネルギーは、芸術である」は、最終的に  $E=MC^2$  にとって代わる。「時は芸術なり」は、「時は金なり」を払いのける。自然時間の「13 の月の暦」は、最終的に偽りの時間のグレゴリオ暦を克服する。

偽りの人工的な時間に拘束された物質的、道徳的な相対性という古い知識は、最終的に終わる。真の計時基準に従う、創造的な平和に結びついた霊的、道徳的な権威を持つ新しい知識が、最終的にやって来た。神聖に開示された真実が、新しい尺度と秩序を確立し、それによって私たち自身が平和な状態に立て直されるとき、この新しい尺度と聖なる秩序を受け入れ、それによって生きることは、私たちの霊的な権利および責任となる。平和がやってきた。地上の平和の時はここにある。正義の王国が確立される。戦争の時代はすぐに終わりを迎える。至高の唯一者の高次の命により、はじめての世界平和が宣言される！ すべての人々の心の中に普遍的な平和が広がることを願う。

電気の月 7 日、赤い磁気の竜、キン 1、立方体 1

ハーモニック・コンバージェンスから第 14 番目の銀河スピンの第 1 番目のキン

はじめての世界平和の勝利

預言の第 4 年：勝利は確立する

「愛の古代の力により」差し出される。  
トゥーソン・ヴォーテクス、  
キン 11 とキン 22

---

## 緊急の霊的な解決法／世界規模で13の月の暦に替える平和の計画

---

1998年の大改暦

勝利の戦略、預言の第5年、「勝利は解き放つ」

倍音の月26日、赤い水晶の竜（グレゴリオ暦：1997年12月10日）は、二人の「アルクトゥルスの監視者」が、スイスのジュネーブの時間博物館で、計時周波数の発見を行ってからちょうど8周年目にあたります。それから正確に3週間後、ベルリンの壁が崩壊し、冷戦も公式的に終了しました。しかしそれは、メディアが人々に信じさせようとしたような、歴史の終わりではありませんでした。アルクトゥルスの監視者は、偽りの12:60と自然の13:20の計時周波数を発見したことにより、植民地主義の暦と地球規模の産業化が、地球や銀河のその他の部分の自然の計時周波数と一致した暦によって取り替えられないかぎり、歴史が終わることはないことを知りました。このようにして、グレゴリオ暦を取り替えて「13の月の暦」にする運動がはじまったのです。

アルクトゥルスの監視者は、世界のすべての人々にこの要点を指摘するため、二人の発見の証明と論証を刊行しはじめました。最初は、1990年の『時間船地球2013、銀河時間の惑星芸術』です。この図解的な数学論文に引き続き、『ドリームスペル、時間船地球2013の旅』の創造と生産が為され(1991年)、青い宇宙の嵐の年のタイムシフトが呼びかけられました(1992年)。そして、理論的なテキスト、論証である『それみずからの次元から見た時間の論文』(1992年)も、『パカル・ヴォタンの呼びかけ、時間は四次元である』(1996年)として出版されました。『13の月の動き』(1992年)は、1996年、1997年にわたってさまざまな言語で出版されています。子どもたちのためには『13の月の亀』や『時間の物語、亀と木の物語』(どちらも1993年)があります。タイムシフトの年の終わりまでに、アルクトゥルスの監視者は、13通の手紙を世界のリーダーたち13人に書き送りました。その中には、ヨハネ・パウロ2世も含まれており、その内容は1993年の水晶の月28日の匿名リーダーシップ会議を呼びかけるものでした。

この改暦への呼びかけを具体化するものが「預言の集大成」(Corpus Popheticum)でした。それは、1993年から1994年にかけてパカル・ヴォタンのテレクトノンとして啓示されはじめ、1995年に『テレクトノン、預言のゲーム』として生産されるとともに、『パカル・ヴォタンと審判の日』(1995年)というテキストで要約されました。この預言は、「13の月の暦に替える平和の計画」と「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」(1994□1995年)を生じ、同時に実現しなかった「惑星規模の道徳的な緊急事態のシンポジウム」への呼びかけも為されました。サーペント・マウンドでの時間はずした日の儀式(1995年)は、この運動によって主催された一連の催しやデモンストレーションの先駆けとなるものでした。「第1回・生物圏の権利の会議」の開催(1996年、ブラジル・ブラジリア)の後には、「生物圏に気づく日」(日本の御殿場)、「境界溶解の儀式」(フォーコーナーズ)、「人類のハーモニック・コンバージェンス」(メキシコ・シティとテオティワカン)が行われました。これらすべては1996年に行われたものです。1996年の秋、アルクトゥルスの監視者は、国連に対してのプレゼンテーションを行い、電気の日27日の「つぐないの日」の初日にその催しに参加しました。

この運動の目的は、『世界規模で13の月の暦に替える平和の運動、完全ガイド』(1996年)に要約されていますが、同時にこの改暦の科学的な前提は、『時間の法則の発見、1989年□1996年』、『時間の力学、260の基礎条件』、そして『四次元の数学原理』に掲載されています。これらすべては、1996年後期に書かれたものです。これらのテキストは、やがて預言の集大成の高



みへと向かうこととなります。それは、「ケツアルコアトル・プロジェクト、1987□1997年」の実現と、『時間の法則の20の銘板、16年間のテレクトノン、法則の立方体、1997□2013年』の啓示です。公的に1997年の春、コスタリカで公表されたこの『20の銘板』が、1997年、日本の東京で開かれた「審判の日の法廷」と「時間の法則に関する世界会議」、そして1997年の時間はずした日の「時間船をドック入りさせる地球規模の瞑想」の基礎を提供しました。

「レーリヒの平和条約」(1935年)を支持し、組み込み、拡張する「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」はまた、古い暦の時間から新しい暦の時間への移行プロセスを、『銀河文化のマスタープラン』(1996年)、『第1回・生物圏の権利の惑星会議』(1996年)、『時間の法則に関する世界会議と審判の日の法廷』(1997年)の出版を通して考察する試みを行いました。全人類に新しい知識が手に入るようにするあらゆる試みを追求する過程で、アルクトウルの監視者は、1996年、マヤン・スターゲートとして知られるチームの試みと共に「目に見えない大学のウェブ・サイト」をはじめました。これはまた、世界中のPAN□PCCノード(惑星芸術ネットワーク□惑星暦協議会)の確立および教育用資料すべての配布を促進するものでもあります。

そして、1997年の秋、アルクトウルの監視者は、究極の戦略、「暦の改革と平和の神学に関して、聖下ヨハネ・パウロ2世との謁見を求めるバチカンへの請願」と、その次の「教皇職の司教科学アカデミーへの緊急の請願」を開始しました。グレゴリオ暦はバチカンがつくったものなので、問題全体は、いまや「緊急の霊的な解決法、世界規模で13の月の暦に替える平和の計画」の形で、直接バチカンの前に置かれなければなりません。この戦略の要点と、この計画をまとめあげる要素は、付随する同じ題のついた「平和のヤントラ」で図解されています。これもすべて、「1998年の大改暦、(7月26日の)赤い律動の月、預言の第6年」のために用意されたものです。

この平和の計画は、いまバチカンの手元にあります。律動の月21日から共振の月2日(1998年1月2日□11日)まで、アルクトウルの監視者と少数のサポートチームは、司教科学アカデミーに「時間の法則の発見」で明らかになったことを提示するため、ローマに向かいます。これもすべて、聖下ヨハネ・パウロ2世との謁見の準備のためです。政治的な利己主義に基づくものではない、共感的・霊的な原理に基づく真の永続的な世界平和の望みすべては、この使節の成功如何にかかっています。この資料は、「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」の内外すべての人々の啓発に益することを意図して準備されました。そうすることで、教育と気づきのレベルが高められ、1998年の大改暦の準備が協調的かつ十分な知識のもとに行われますように。

アルクトウルの監視者、キン11とキン22によって提出される

## バチカン・13の月の暦に替える平和の任務

今日から3週間後、古いグレゴリオ暦の新年の日、私たちはバチカンに対して重要な平和の任務を担い、アリゾナからローマへと飛び立ちます。新しい知識と、平和に対して、いままで試みられたことのない方法を持ってローマに向かうのです。それは完全に霊的で包括的な知識や方法です。私たちは、今回のこの提案が、環境問題に対して十分に責任ある発言をできなかった京都會議での各国の最終的な失敗のあと、そしてこの地球温暖化のこの時期に、世界情勢における平和的で根本的な変化を引き起こす最後の機会であることを知っています。

この観点から、今回のバチカンへの任務は、マルティン・ルターが「95か条の論題」を（※訳注：1517年、ウィッテンベルク城の）教会の扉に張り出したことや、ガリレオが新しい知識を教会の博士たちに示したことにもなぞらえることができます。私たちの「論題」は、時間の革命です。すなわち、バチカンのグレゴリオ暦を「13の月の暦」にとって代えることです。ここでもたらされる新しい知識は、「時間の法則」に関することであり、今や地球の破局の瀬戸際に私たちを連れてきた相対性理論や不確定性の科学にとって代わる確定性の科学の基礎となるものです。

私たちの任務の目的は、バチカンに人類情勢における根本的な変化のためのフォーラムを開く至高の好機として、改暦を支持し、促進してもらうようにすることです。この変化は、霊的なものでなくてはなりません。なぜなら、政治家、銀行家、実業家は、平和への意志を持っていないことがあまりにも明らかだからです。平和への意志は、目的において霊的にも道徳的にも統一された人々からのみもたらされます。その人々は、霊的な権威が、現在形づくられているようなどんな世俗的な権威よりも大きなものであることを喜んで主張し、人類の運命を形づくる際に今、鍵となる役割を果たさなければなりません。

この目的に向かって、仏教、キリスト教、イスラム教という三つの偉大な霊的な遺産のリーダーたちや、先住民やその他の地域の霊的な伝統からの同等の代表者たちによって構成される「平和の神学の全宗教協議会」(The Ecumenical Council for the Theology of Peace)のための計画を考えました。このすべては、千年紀の大改暦、1998年7月26日の準備のためにあります。その日、「13の月の暦」の日曜日は、古い暦の日曜日にもなります。暦を替えることは、西暦2000年の「コンピューターの機能停止」に関しても根本的かつ肯定的に私たちの観点を変化させるでしょう。

教皇と司教科学アカデミーとの謁見を求める請願は、すでに教皇職の方々に差し出されました。私たちは、律動の月22日から共振の月2日（1月2日～11日）までローマに滞在します。この期間のあいだ、私たちの任務について考慮する、真の平和を望む人々の祈りや瞑想をお願いします。

私たちはまた、ヨーロッパの「13の月の暦に替える平和の運動」の構成員をローマに招いています。律動の月28日（1月9日、金曜日）の夕方、および共振の月1日（1月10日、土曜日）の昼間に、相互に関心のある問題を話し合うことを考慮してもらうためです。

倍音の月27日、白い宇宙の風、サイ時間単位：赤い月の地球  
地球の普遍的な信仰に奉仕する

「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」コーディネーター、  
ホゼ・アグエイアス～ヴァルム・ヴォタンとロイディーン・アグエイアス～ボロン・イク

## 世界暦と第二の改革／時間の革命

第二の改革はちょうどはじまったばかりで、今度はバチカンが積極的に参与している。バチカン高官とのグレゴリオ暦を新世界暦に替えるという創造的な対話の開始が、グレゴリオ暦の1998年の最初の10日間のあいだに実行された、バチカンへの独自の平和使節の結果である。この作業は、「第二の改革」の下準備であり、ホゼ・アグエイアス博士と彼の共同作者ロイディーン・アグエイアス夫人によって引き受けられ、「13の月の暦に替える平和の運動」の構成員の協力によって為された、現在の暦を替える8年間の試みの頂上を占める。

新世界暦がこのように呼ばれるのは、それが新世界からやってきたものであり、全世界にとって新しいものだからである。グレゴリオ暦、旧世界の暦は、時間における明らかな過ちを永續させることにほかならない。それは、尺度基準ではないのだ。それぞれ28日ある13の月の暦という新世界暦は、非論理的に名前と番号をつけられた12か月の暦とは異なり、時間の法則によって支持される実際的な尺度基準である。この法則は、グレゴリオ暦の過ちが人工的で不規則な計時周波数を促進し、それにより人類がますます自分自身の中で、そして自然と不調和になることを示すものである。この不正確な計時周波数は、地球生物圏の破壊と、人類をいまや取り囲んでいる物質主義、暴力、社会的な無秩序といった、果てしないように思われる悪循環の背後にある根本要因である。

アグエイアス夫妻によれば、新世界暦は、新世界のマヤ文明からの真の貢献を人類にもたらすことにより、人間の歴史の元帳の帳尻を合わせるという。新世界暦は、調和的で規則的であることに加えて、その歴史の中ではじめて真の太陽(暦)の尺度基準のもとに人類を統一する。人間の女性の生物周期を、月の平均周期である28日と結びつける新世界暦は、それゆえに「13の月の暦」として知られている。12か月のグレゴリオ暦は、1582年、教皇グレゴリウス13世によってユリウス暦を改暦する結果生じた。グレゴリオ暦を替えることを、その源泉であるバチカンに委ねることで、記念碑的で前代未聞の世界規模の催し、1998年の大改暦へと向かう道がいまや明らかになっている。

アグエイアス夫妻に先導された平和の使節は、高等礼拝業務の任にあたる法王の個人秘書(書記官)に受け入れられ、聖下ヨハネ・パウロ二世に代わって、改暦を支持する文書が受理された。その文書はまた、バチカン観測所、スペコラ・ヴァチカーナ、すなわち科学司教アカデミーの機関にも提出された。次のステップは、この試みを国連と調整することである。グレゴリオ暦を替えるというバチカンの平和の使節は、「平和の神学の全宗教協議会」、すなわち改暦の全側面を監督する普遍的な精神体を創造することによって、その手段が提供されることだろう。改暦は、新世界暦の初日、磁気の日曜日に生じ、大改暦の年、赤い律動の月の年の完全な52週間を正式に開始する。

1998年1月6日付けの『ファイナル・コール』で、ティネッタ・ムハンマドは、アグエイアス夫妻の率いる平和の使節について次のように書いている：

「... 私たちが西洋のグレゴリオ暦と、ホゼ&ロイディーン・アグエイアス夫妻の先駆的な研究により見いだされた<13の月の暦に替えること>のあいだを体験しようとしているという大きな出来事、改暦が予告されている。私はまた、何年も前にムスリム(イスラム教徒)の世界はグレゴリオ暦から手を引くべきだと主張しているのが、なぜムアマル・カダフィ大統領だけなのか疑問でならない。いったいどれほどのムスリムのリーダーたちが、これを真剣にとらえているのだろうか。そして、いったいどれほどの者が、私たちの世界の生存にあまりにも重要な<13の月の暦に替えること>に暗示されることを研究しているのだろうか？」

そして、彼女は、改暦を全世界的な文脈の中に位置づけ、つけ加える。「アグエイアス夫妻は、彼らにとって最も重要なローマのバチカンへの使節の途上にある。いっぽうで私たちの敬愛するファラカン牧師は、決断の谷で国家世界に対して継続的に最終的な呼びかけ（ファイナル・コール）のラッパを吹き鳴らし続けている。ハルマゲドンの戦争を回避するという希望をもって」。

アグエイアス夫妻によれば、「ファラカンの平和の使節と、バチカンや国連と共に手を携えて作業中の新世界暦は、＜13の月の暦に替えること＞がどのように生じるかを予想するものである。新世界暦とファラカン牧師の平和の連合は、新しい普遍的な霊性のヴィジョンをもたらす。バチカンは、全人類のための見本として霊的な責任を引き受ける。そして国連は、自律的な個人に対する生物圏の権利の回復を確約する国家の政治的な非解放状態（※訳注：支配／被支配などの関係により、実質的に多くの国家が自治権を持っていない状態を指すと思われる）を監督することによって平和の使命を満たす。その結果は？ 普遍的な平和の幕開けとなる時代および時間統制への参入である。第二の改革は、いまはじまったばかりだ。時間の革命は、古い千年紀をハッピーエンドで終わらせ、新しい千年紀を正しくはじめる、決断の谷で提示された機会、暦を替えるという機会に、全人類がどのように応答するかにかかっている」。

新世界暦と時間の革命のために  
預言の第5年、黄色い倍音の種  
共振の月4日、青い共振の驚  
(古い世界のグレゴリオ暦：1998年1月13日)

## 新世界暦への改暦平和条約：前提

新世界暦への改暦条約は、バチカン、教皇職と、いまや独立的に設置されている地球の共同体のあいだの公式の同意です。この条約は、不正確な尺度基準となっているという根拠に基づき、1582年にバチカンによって最初に正当化された、現在使われているグレゴリオ暦を、正確な尺度基準、13の月・28日の新世界暦に取り替えることを明記します。

これが新世界暦であるのは、それが全世界にとって新しいものだからであり、またそれが新世界の知識から引き出されたものだからです。またそれがゆえにこの新しい暦は、不平不満の矯正、歴史の元帳の帳尻合わせとして仕えます。この観点からすると、最初の署名調印国は、新世界のラテンアメリカ国家として知られる国々によって構成されるべきでしょう。なぜなら、不正確な暦のくびきが最初に位置づけられた所だからです。

最初に新世界のラテンアメリカ諸国に対して始められると同時に、バチカンも国連総会と一致した形で、1998年7月26日に実施される新世界暦への改暦平和条約の制定を開始し、促進してもよいでしょう。それは、靈的に構成される「平和の神学の全宗教協議会」と、1999年7月25日まで同時平行的に進行します。

「平和の神学の全宗教協議会」の最初の活動と、新世界暦への改暦条約の礎石は、次の3つの根拠により、国連の安全保障理事会を非合法化し、解散させる呼びかけです。

1. 平和の定義の基礎としての軍事的な安全保障という考えは、論理的にまちがっている。武器が平和をつくりだすものでないことは、歴史が証明している。
2. 現在構成されている安全保障理事会は、この惑星で最も軍事的な5つの国家の管理下にあり、それらの諸国は、軍拡競争を永続させる原因となっている。これがゆえに、そして真の平和のために、および平和を守る集会としての国連の本来の目的を成就するために、安全保障理事会は即座に解散されるべきである。
3. 安全保障理事会の5つの常任理事国は、一時的な権力の均衡を反映したものにすぎない。この権力の均衡が時の終わりまで続くとは断言できる者は誰もいない。したがって、これらの根拠を元にした安全保障理事会もまた、正当なものではない。

以上の論拠は、安全保障理事会が非論理的、非正当的に構成された組織であり、真の平和の追求および創造とは何の関係もなく、ただまったくの現状維持を長らえさせるだけであることを論破する、道徳的および靈的な論理（論駁）を形づくっています。安全保障理事会を取り除くことで、国連総会は本来そうあるべき惑星規模のフォーラム（公開討論の場）へと解放されることになり、その一方でその総会の前に平和のための真に靈的な住民投票がやっと位置づけられることになるでしょう。新世界暦への改暦条約は、この機会へと門戸を開くという目的を持ち、そうすることで「時間の法則」の発見の意味がそれ本来のあるべきところ——地球の共同体の前——に位置づけられることとなります。この新世界暦への改暦条約を促進することで、教皇職も第2の千年紀の終わる前に、その究極の靈的な責任を果たし、人々と地球の共同体のためにひとつの模範を示すことになるでしょう。

共振の月 14 日（グレゴリオ暦：1998年1月23日）、  
「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」によって差し出される

## 新世界暦への改暦平和条約

---

グレゴリオ暦は 1582 年、教皇グレゴリウス 13 世の布告によって最初に認定された証書であるという事実、そしてこの証書、グレゴリオ暦はいまや事実上、世界規模で使われる計時基準となっているという事実、さらにこのグレゴリオ暦がいまや実質的に世界の全国家で採用されているにもかかわらず、このグレゴリオ暦の責任を正式に引き受ける機関は、バチカン以外にはないという事実。以上の事実を踏まえると、この暦を正当化し、それを維持する責任を引き受けることは、唯一バチカンという機関の公式の義務だと認められる。

そして、この暦がいまや不正確な尺度基準であると認識されているがゆえに、世界の国家に尺度基準としてのグレゴリオ暦の不正確さを伝え、同時に正しい基準としての 13 の月・28 日の新世界暦に即座に替えるという提案をすることも、また同様にバチカンの公式の義務である。そして、不正確な時間の基準を正確な時間の基準へと平和裡に確実に替えるために、バチカンは、世界国家が古い暦の時間から新しい暦の時間へと平和的かつ平穏に移行し、そうすることで人類が平和を体験し、時間について正しく考えることができるようにする手段として、この新世界暦への改暦平和条約をここに提案する。

さらに、暦や時間の根本的な性質を認識すると、この公式の平和条約に賛同し、それを確約する世界の署名調印国は、それが世界国家の統一的な同意のために国連総会に提出される、普遍的な平和への手段の証書であることをここに十分に理解する。そして、平和的かつ平穏な古い暦の時間から新しい暦の時間への移行を確実にするために、「平和の神学の全宗教協議会」が確立され、1998 年 7 月 26 日に効力を持つ改暦を監督する。そして、この「平和の神学の全宗教協議会」は、現在、設置されている国連の安全保障理事会に取って代わるべくして設置され、国家間協議の真の霊的な代弁者となる。また、この条約の前提で明記された根拠に対する不平不満の矯正として、安全保障理事会は、霊的、道徳的、論理的な根拠に基づいて解体され、その権威は「平和の神学の全宗教協議会」に取って代わられることになる。そしてこの協議会は、キリスト教徒、イスラム教徒、仏教徒の霊的な長老たちの代表者、およびその代表者たちと協調した先住民の長老たちの同等の代表者たちによって構成される。

そしてこれ以降、すべてのテクノロジーが霊的な考慮から離れ、将来の社会価値に対する影響力を無視した人工時間の要求によって開発されたという事実の光のもとで、この協議会は新世界暦への改暦の権威によって権限を授けられて、新世界暦の規則的で調和的な尺度に応じた、人間社会の基礎を改革するという大きな任務において、国連を支援し、またそれを導く組織となる。私たち、バチカンおよび署名調印国は、正しい尺度基準で不正確な尺度基準を代替することをここに公式的に誓い、新世界暦への改暦とその機関である「平和の神学の全宗教協議会」によって明記された、古い時間から新しい時間への移行の必要における平和的かつ平穏な意図を支持する。そして、新世界暦への改暦の新しい時間と一致した真の世界平和を創造するために「平和の神学の全宗教協議会」によって確立されるガイドラインを神に誓って遵守する。

## 運動の状況報告：時間の革命を止めることはできない

### 1. 運動

あなたは時間の革命を止めることはできません。「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」とは、時間と一致した革命的な瞬間であり、すでにその時がやってきました。唯一の真の革命、すなわち「再回転」(※訳注：英語の revolution／革命には、re-revolution すなわち「再び回転」するという意味がある)は、時間のひとつです。時間の本質 (nature) を知ることは、自然 (nature) の時間を知ることです。私たちが生きている時間が不正確であることを自然時間によって知ること、それは行為のための正しい時間を知ることでもあります。時間の革命の武器は、時間そのものであり、不正確な暦に代わる正しい暦であり、それにより新しい時間をはじめることです。

象に曰く、  
沢中に火あるは革なり。  
君子もって暦を治め  
時を明らかにす。

「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」は、それが誕生した1994年以来、その目的を次のように述べています。「不正確なグレゴリオ暦を正しい基準、28日・13の月に替えること。このような変化を引き起こすことは、世界平和の機会をもたらすことであり、それにより平和な自然時間をはじめることです」。この運動のリーダーや組織者たちは、当初から暦を替えることは、時間をひっくり返すすべてを変えることであり、既存の制度すべての全体系的な再編成をもたらすものであることを知っていました。あまりにも長いあいだ不正確な時間に生きることによって生じた大規模な不正や墮落を正すための新しい時間が、秩序の調和と平和のために必要です。この目的に向かって、この運動は一連の催し、プロジェクト、戦略によりその目標をさらに押し進めました。それらには、「生物圏の権利の惑星会議」、「人類のハーモニック・コンバージェンス：はじめての世界平和の4年間をはじめ」、「倫理プロジェクト」、「目に見えない大学のウェブサイト」、「時間の法則に関する世界会議と審判の日の法廷」、「バチカンの平和戦略」、そして「北米のキンの集会」が含まれます。

「13の月の暦に替える平和の計画」の傘下における外交的な試みと現在進行中の「惑星規模の道徳的な緊急事態」が、結果として「新世界暦への改暦平和条約」を生じ、「平和の神学のための全宗教協議会」、および預言の第6年、赤い律動の月、1998年7月26日の「大改暦」で最高潮に達します。

### 2. 戦略：歴史の脳梁を横切る

真に時間と時間そのものの本質と一致している時間の革命は、すべての革命の母です。それはまた、全歴史の中でも完全に霊的な革命、歴史を終わらせる革命です。時間の革命は、宇宙および地球における生命の秩序を司る大きな変化の季節の中で、すでに用意されています。「13の月の暦に替える平和の運動」は、いまや私たちのもとに押し寄せるこの大きな季節の変化に応じて、それみずからの歩調を定めています。この大きな変化は、「歴史の脳梁を横切る」と表現されます。これは、歴史から歴史以後へと再び横切る「回帰」です。

全体系を司る法則の分析によれば、この横断 (交差) は、「コドン 49、時間の革命」の、サ

イバンの活性化に対応します（『アース・アセンディング』の地図 43、49 を参照）。この横断の正確な瞬間は、預言の第 5 年、共振の月 15 日にはじまり、その開始位相は惑星の月 21 日に締めくくられる 13 週間周期に広がっています。第 2 位相、「銀河オクターブの浸透」は、預言の第 5 年を締めくくる最後の 13 週間です。そして「時間をはずした日」のあとの「改暦」は、古いグレゴリオ暦の 1998 年 7 月 26 日と同期します。それは、どちらの暦でも日曜日です。この時間の革命が完全に成功するためには、この時間の「運動」が、この革命的な変化の周期における鍵となるポイントに調整し、同期しなければなりません。

### 3. 全地球の再誕生から、52 日間の時間の革命まで

革命的なスケジュール：

- 太陽の月 15 日。世界規模の春分の日浄化のセレモニー。全地球とその生物圏を称え自己浄化のために各地域の聖地に集まる。
- 太陽の月 17 日～23 日。グアテマラ、ソロラ、「マヤの会議」、マヤの長老たちが新しい時間におけるマヤの宇宙ヴィジョンを確立するために集まる。
- スペクトルの月 7 日～9 日。引き金となる催し：世界規模の PAN-PC C 全地球再誕生のセレモニーは、カリフォルニア大学デイビス校で開かれる 28 回目の年次ホールアース（全地球）・フェスティバルと時間を合わせる。完全な 13:20 の改暦を公にする情報と「時は芸術なり」の催し。あなたのローカルな生態地域で「神秘通り」と「魔術師通り」のグローバル・ヴィレッジ（地球村）交差点をつくる。
- 水晶の月 23 日。「時間の法則」と私たちをつり合わせるために、世界規模の「夏至の自己浄化の儀式」を行なう。
- 水晶の月 28 日。52 日間の時間の革命のはじまり。沈黙の中で行進する。ローカルな PAN-PC C による「平和の神学」のためのネットワークを召集する。
- 宇宙の月 25 日～28 日。「平和の神学のための全宗教協議会」を召集し、大改暦と来たるべき平和の時間に関してコミュニケーションし、情報を共有するために、「ローカルな平和の神学ネットワーク」と調整し合う。
- 時間をはずした日、黄色い倍音の種。世界平和のセレモニーと普遍的な虹の祝祭。
- 磁気の日 1 日、赤い律動の月。預言の第 6 年。千年紀の大改暦、普遍的な平和のセレモニーの新しい時間に入る。
- 磁気の日 22 日、白い磁気の日、ハーモニック・コンバージェンス 11 周年、52 日間の時間の革命を締めくくる。



#### 4. なされなければならないこと

「文明にしてもって説（よろこ）び、大いに亨りてもって正し… … 天地革まって四時なり、湯武命を革めて、天に順（したが）い人に応ず… … 革言三たび就（な）れば、孚（まこと）ある… … また何（いづ）くにか之（ゆ）かん」

（口語訳）

「革める人に文明（離）の徳があり人々がこれを説（よろこ）ぶ（兌）のであるから、大いに亨りしかも正しきを得るのであり… … およそ天地陰陽の気は相い革まることによって四時を成立させ、殷の湯王・周の武王は革命すなわち天の命を革めることによって、天道に従い人心に応ずることができたのである… … 革むべしとする衆議が三度までまとまれば、事を断行しても人から孚（まこと）とされるであろう… … もはや事を断行する以外にどうしようがある」  
（『易経』の卦49番、「革」象伝より。※訳注：本文／口語訳は共に岩波文庫『易経』下巻による。）

「時間の革命」を成就するには、特別なガイドラインとゴールがかなえられなければならなりません。これはまったく平和的な革命であり、ここでその主要な目標のひとつは、完全に多国間における世界規模の武装解除です。正しい暦と真実は、この革命の唯一の武器であり、それは心の革命です。この革命の正当性は、「時間の法則」、「新世界暦への改暦平和条約」、そして「レーリヒの平和の旗」によって確立されています。あなたの権利は、「第1回・生物圏の権利の会議」で詳細に説明されています。古い時間は、完全な墮落の中で終わりました。「正しきを得ること」は、四次元の時間の放射状母体の同等（平等）化の力により再び確立されます。ためらうことなく、行動を起こしてください！ 何がなされなければならないのでしょうか？

●公共教育が最も重要な準備です。これが意味するのは、今年のカレンダーはもちろん、特に来たる預言の第6年、暦の位相シフトの年のカレンダーです。加えて、関連資料は可能なかぎり幅広く手に入るようにならなくてはなりません。それには以下の教育用小冊子が含まれます：「13の月の動き」、「13の月の暦に替える平和の運動」、「第1回・生物圏の権利の惑星会議」、「時間の法則に関する世界会議」、「時間の法則の発見」、「倫理プロジェクト」、「時間の力学」、「銀河文化のマスタープラン」、「パカル・ヴォタンと審判の日」、そして「13の月の暦に替える平和の運動・完全ガイド」。情報の大量配布の目標となる日付は、スペクトルの月7□9日、全地球（ホールアース）再誕生の催しの時です。この頃までに、ローカルなPAN□PCCは、「13の月の暦という新世界暦」や平和の新しい時間を定義し、それを説明するレクチャー、イベント、ワークショップのスケジュールもたてるべきでしょう。

●平和の旗をつくります。いまや平和の旗をつくり、引き金となる催しである全地球再誕生、スペクトルの月7□9日までにそれを掲げる準備を整えるときです。52日間の時間の革命のあいだ、この旗が、人々が生物圏のための平和を宣言するしるしとしてあらゆる場所に掲げられるべきです。

●世界中のPAN□PCCの惑星規模の調整。いまやこの運動の活発なノード（結節点）が、アルゼンチン、チリ、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、ニュージーランド、メキシコ、北米、日本、ロシア、そしてイタリア、ドイツ、オーストリア、英国、オランダ、そしてフィンランドを含むヨーロッパ全体… … と、いま活性化している地域の名前を少しあげるだけでもこれだけあります。中心化する情報ノードは、さまざまな鍵となる生態地域のPAN□PCCのノードのあいだの出版や活動を調整するために確立されつつあり、そうすることですべてが相互に連結し合うひとつの全体、時間において連結するひとつの連鎖として動くようになります。

●全宗教的な平和の神学のサポート・ネットワーク。歴史の脳梁を正しく公平に横切ること

を監督するため、「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」のコーディネーターは、「平和の神学の全宗教協議会」を計画中で、これはバチカン、国連、先住民協議会、イスラム連合の並はずれた霊的な調整となります。この高いレベルの霊的な統治組織が、はじめて宇宙の月25日□28日に召集され、そしてその後、国連の安全保障理事会に代わる役割を担い、またそうすることで改暦が施行され、新しい時間の平和的で調和的な要求がかない、確立されるように監督します。全宗教的な平和の神学のサポート・ネットワークは、PAN□PCCに後援される草の根の中央協議会を補完する役割を担い、可能なかぎり多くの地域のコミュニティにおいて新しい時間に関する真に全宗教的な対話を奨励するようになります。このサポート・ネットワークの構造体は、全宗教協議会とローカルな生態地域の決断を仲介するローカルな調整協議会として、預言の第6年全体にわたって機能します。翌年に入ると、このプロセスの発展を説明する進行中の文書が用意されます。

●全地球再誕生の催しのあと、水晶の月のあいだに、水晶の地球の円卓の集まりがなされるべきでしょう。それは、「生物圏の勝利」というテーマを持った円卓です。すべてのPAN□PCCによって召集されるこれらの円卓は、なされた進展状況を調整し、再検討することで、最も決定的な52日間の時間の革命に備え、「平和の神学の全宗教協議会」と1998年の大改暦の準備のためのあらゆることを確実なものにします。また、さらに以下のような対話を行ないます：「武器のない平和とはどのようなものか?」、「真の平和とは何か?」。

●52日間の時間の革命。これは、私たちが自分たちの話を実際に動かしてみ、私たちの言葉が実際に実りをもたらしものかを見てみる時です。もう一度、銀河ストライキのための呼びかけが発せられます。「消費主義とグローバル化（地球規模の産業化）にノーと言うこと。みずから信じることを生き、あなたの生活を芸術にすること。隣人に手を差し伸べ、あなたと共に大きな河を渡るのを手伝ってあげることです!」。「平和の神学の全宗教協議会」、「時間をはずした日」そして「大改暦」に備えます。時間の革命の52日目の日までに、あなたのコミュニティが自然とぴったり時間を合わせられることに誇りをもってください!

無駄にする時間は、片時ありません。バベルの塔はそれみずからの墮落と愚かさの中に沈み、ぐらついています。大きな変化が時間の法則によって活性化し、いまやその人間資源を勧誘しています。時は適切です。仲間をつくり、平和の軍勢を用意して、街頭やハイウェイのあちこちで行進しましょう! 正しい時間にスイッチを入れましょう。13:20の周波数にチューニングして、古い時間からドロップアウトするのです!

預言の第5年、銀河の月9日、黄色い磁気の星、PCUキン141、11・竜  
第4週、時間の革命：コドン47、源泉への呼びかけ、第2線

## 新世界暦への改暦： 国連、バチカン、そして千年紀の Y 2 K コンピューター危機

第 2 の千年紀が近づくにしがって、新しい時間（時代）に入るというヴィジョンがわき起こります。新しい時間を語ることは、改暦の問題を取り上げることです。この問題は、いまや「Y 2 K コンピューター危機」と呼ばれることで脚光を浴びています。コンピューターが 2000 年という年を扱うようにプログラミングされていないという事実は、壊滅的かつアポカリプス的な性質の問題を示し、人類の近視眼的な視野と人工的なテクノロジー——および人工時間——に対する依存を反映しています。Y 2 K 危機は、その根幹において、暦の時間の問題です。では、それは誰の時間で、誰の暦なのでしょう？ AD2000 年 1 月 1 日は、現在の世界暦、グレゴリオ暦における日付です。この暦は、まったくのところ絶対的なものではありません。それはただ単に、ヨーロッパ社会がいまやいわゆる「グローバル化（地球産業化）」と呼ばれるもののプロセスを開始した重要な時点に、歴史の偶然が人類に課した暦にすぎません。Y 2 K コンピューター危機は、改暦の問題と切り離すことはできません。近年の改暦の歴史は、いったいどのようなものなのでしょう？

1956 年、国連の「経済社会理事会」は、改暦に関する議論を一時、中断しました——そして、いまだに再開されていないのです。改暦の討議の対象となっている暦とは、もちろんグレゴリオ暦です。この暦は、グレゴリウス 13 世によって AD1582 年に命じられたもので、いろいろ支障がありますが、なかでも、いらだたしい閏年の 2 月 29 日という日付、そして現在の Y 2 K の原因となっているものです。1962 年 12 月 4 日、国連がグレゴリウス 13 世の暦に関する討議を中断してから 6 年後、バチカンは「改暦に関するバチカン第 2 の世界教会協議会の宣言」を発しました。現在は、「聖なる典礼書」の付録となっている、バチカンのこの 1962 年の「改暦宣言」の第 2 条では、その暦がキリスト教徒の典礼の儀式にあまりにも重要な日曜日を維持する形で、7 日間□ 1 週間を保っているかぎりは、「市民社会のために万年暦を導入する提唱に反対するものではない」と述べています。ところが国連もバチカンも、彼らがそれぞれ 42 年前、そして 36 年前にはじめた改暦の話題に対して、その後のフォローをしていません。

1991 年、バチカンがもともと暴力的にそれに反対した（ディエゴ・デ・ランダ司教の『ユカタン事物記』／Relacion de las Cosas de Yucatan, 1572 年を参照のこと）遺産の一部である、マヤ暦の研究を続ける過程で、ホゼ・アグエイアス博士とその妻ロイディーン・アグエイアスは、「13 の月の暦」という万年暦を生み出しました。マヤの「トゥン・ウク」と呼ばれる 364 日の太陰暦を元にしていながらも、この「13 の月の暦」という万年暦は、1 週間 7 日を保ち、週の最初の日曜日となっています。その点で、バチカンが 1962 年に規定した必要を完全に満たすものです。グレゴリオ暦をこの 13 の月・28 日の万年暦に取り替えることを主張するにあたって、アグエイアス夫妻は改革のより深い必要性を次のように例証します：

グレゴリオ暦の 12 か月と、それに関連した人工的な計時装置、60 分 1 時間の機械時計はともに、空間の尺度が時間を測るのに使えるという誤った仮定に基づいています。この時間における過ちは、アグエイアス夫妻の研究によれば、人工的かつ機械的な 12 : 60 の計時周波数を形成し、現代のすべての人類文明はそれに基づいています。

その結果生じたのは、機械化されたスピードに中毒し、自然とますます対立している自己破壊的な社会であり、そのためテクノロジーにのぼせあがり、そのことにあまりにも近視眼的であったために、Y 2 K でそれみずからの死を願うことになったのです。

1993 年、アグエイアス夫妻は、改暦に関してローマ教皇やその他の世界のリーダーたちに請願書を提出しはじめました。ユネスコの長官はこの問題に関する議論を支援してくれたにもか

かわらず、1995年、国連はその50周年記念行事の一環として改暦を考慮することを拒否しました。暦および人工的な計時周波数と自然の計時周波数の性質の発見を、「時間の法則」として公式化したアグエイアス夫妻は、「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」の後援のもとで、「第1回・生物圏の権利の惑星会議」（1996年、ブラジル・ブラジリア）と、「時間の法則に関する世界会議」（1997年、日本・東京）を開きました。これら二つの会議の目的は、提案された改暦に関する科学的、道徳的、社会的、環境的、歴史的な問題を定義することにあります。

1998年初頭、アグエイアス夫妻は、彼らの提案書を直接、バチカンに持ち込みました。そして、国連にももう一度、提出しました。「新世界暦への改暦平和条約」として知られるこの文書で、改暦に向けて提案された日付は、1998年7月26日に設定されました。その日は、グレゴリオ暦でも、「13の月の万年暦」でも日曜日にあたり、したがって不規則なグレゴリオ暦の12か月の尺度から、規則的な「13の月の万年暦」の尺度へ1年間にわたって移行する完全な機会となるものです。この提案は、いまや次のような高官たちに委ねられ、その人たちの決断次第となっています：国連事務総長コフィ・アナン氏、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世、さらには米国の国連への常設派遣団、バチカンの国連への常設オブザーバー、科学司教アカデミーの所長、司教文化協議会の会長、神聖祭儀と秘蹟修養の信徒団の秘書官、その他です。

国連が1956年に成し遂げなかったこと、そしてバチカンが1962年に提案したことは、いまや「新世界暦への改暦平和条約」において解決されます。今年の改暦への提案は、現在の情勢の進路において真の活路を開き、次のような疑問を提示する世界の霊的な協議会に基づいた、緊急の平和を確立する機会をもたらします：人類はどこに向かうのか？すべての選択肢が調べ尽くされたのか？1912年、タイタニック号が沈んだのと同じように、私たちの文明もまた沈んでしまうような、そんな真つ暗な路地に私たちは入り込んでしまったのだろうか？

Y2K危機は、現在のような形で方向づけられている文明がそのまま舵をとれば、防ぐことはできないほんの氷山の一角の出来事です。これから起こる最悪の事態を未然に防ぐに十分な形で、テクノロジー的な解決をはかることはできません。そのテクノロジー開発に十分な時間はないのです。これは、みずからのテクノロジーを信じ込んでしまった人類が、時間における過ちの上でもがいているという、はっきりとしたしるしです。暦における根本的な過ちは、それは尺度基準ではないということです。いま暦を取り替えることは、人類文明の進路を変更することです。等しい（平等な）尺度基準である暦によって舵をとることだけが、すべての人のために正義と平等を確立することに、大きな利益をもたらすことができます。晩年にアルバート・アインシュタインは次のように述べています。

「私は、私たちがこれまで慣習的に理解していた時間が、まったくの幻想であることをはっきりと納得させられた。たとえ、それがどんなに根づよいものであっても」。

改暦の呼びかけに今、注意を払うことによって、人類は自己破壊の道を盲目的に押し進める幻想を見破ることができます。決断はいまや、バチカンと国連の手に委ねられています。また、目を覚まし、必要な情報を与えられた世界の人々にも、まだ時間のあるうちに、この前代未聞の改暦について考え、それをエネルギーに支持してくださることが求められているのです。

時間の革命 平和の計画と運動

---

青い銀河の嵐の年・磁気の日1日/kin99 (2000年7月26日) 発行

白いスペクトルの魔法使いの年・倍音の日17日/kin22 (2003年12月1日) 第2刷発行

著者：ヴァルム・ヴォタン&ボロン・イク (ホゼ&ロイディーン・アグエイアス)

翻訳・構成：高橋 徹&PAN日本語翻訳チーム

協力：(旧) パン・ジャパン

編集・発行：PANブックレット帯広

- 「PAN日本語翻訳チーム」による訳語の見直し等により、文章の語句を変更することがあります。